



月刊 第515号

あやめ・あじさる

榛山木の花に雨

気象庁の梅雨入り宣言から、裏に挙行。それ程の雨もなくむしろ五月晴れと言うようなお天気がつづいて場所取りまでして集った時代、寺泊地区の町民運動会も心もあり、丸一日遊山気分です。配なしの天気にも恵まれる中盛會持参で楽しんだ日々は己に昔語



夏至の夕日である。日没は七時過ぎとなる。佐渡ヶ島小木の辺に沈む。冬には能登に近い方に沈み次第に北側へ移動しまだまだ佐渡の中心位まで移動する。

りと言うところ。仮装行列あり又各地区に陸上競技に情熱をかける名選手あり又余興種目の達人ありで、応援も燃えご婦人方の手料理も夜の部では花を添えた時代は終ったようだ。

ひと頃は一区全盛時代もあり又各区でこの種目は他区に譲れない、この種目は他人に譲せないと思つて心持でいたものだが、今は仲々出場者探しに役員が苦労する場面も多いようで、若い家庭では車で全員出掛ける約束が優先で、慰勞会も楽しみの多い時代、あまり盛り上りも期待できない様子である。

今年は五区が優勝で、やはり優勝を手中にすれば夜の部は相当な盛り上がりを見せたことである。

六月はここ数年遺蹟の集いが開催される定番となり、今年も昭和十四年組が「ぶちたや旅館」を会場に集った。

記念講話は中学校当時の先生西生寺住職阿刀隆信師。一同白山姫神社参拜の後、約七十名がなつかしい思い出話を花を咲かせ、つきない交流の時を惜しんだようである。

先号は野積方面の紹介があったので今回は記事を求めて旧前坂からカミの海岸を歩いてみた。あじさいの咲き始め、何となく復活を願っているもの、その光は未だ見えない。



彼があつて天気さえよければ若者達は夏を持ち切れずボードを抱えて海岸に集る。寺泊では、落水周辺、間瀬海岸もポイント。野積海岸はウィンドサーフィンが中心。

このあじさいは多分原種に近い青系統の類あじさいが道沿いに梅雨の季節を色どつてくれたのだが、今は一株が目だつのみで、性の強い植物にもかかわらず他の雑草に淘汰されて、わずかに点在するのみ。

補植しようと手当り次第に二本程を挿し木で根付かせては見たものの、他の種類を植えてよいものかどうか迷っている現状である。

コロニーへ下る道路には、これもひと頃ネムの木が初夏に向けて繊細な花を海風にそよがせてくれたのだがこの木も最近あまり元気がない。

特に今年は五月に思わぬ大風

が吹いて、潮を含んだ風に折角芽吹き初めた若芽がチリチリに痛めつけられてしまったせいもあるが、ハマナスもニセアカシアも花の季節を迎えているのだが一向に元気がない。

ケヤキやサクラの葉はその時の影響で、まるで秋の落葉の季節を迎えたように散り急いでいるのは何ともあわれんでさへある。

コロニー白岩の里では一部増築工事が始まっているようで、大型のクレーンが活気ある動きを見せてくれている。

文化会館はまなすでは七月六日催される小椋佳の企画・演出と自づから出演と言う一休恋慕」が早々と入場券完売で当日



6月7日はまさに絶好の運動会日和に恵まれて海浜グラウンドで市民運動会が催された。
少々低迷気味とは言え、生まれれば競技に応援に熱が入る。
今年は5区が優勝した。

が楽しみである。
会館下手に春早々映画のロケ現場のセットを思わせる工事が始まり何事かと町民関心の的であったようだが終って見れば松の苗木を植える風除けとあって何とも言いようのない結末と云うのが筆者正直な印象。
前庭のハマナスの花園は前述のようなわけで盛りの季節を迎えながら今年には花数も僅か。
兎角どんよりと鬱陶しい季節。白やピンクの花が夏への憧れの気分を引きだて又サクラソボ、ビワ、グミなどつややかな果実が店先を鮮やかに色どつてくれるのは自然のやさしい配慮と言ふものであるうか。

魚の市場通りはひと頃には比べ各の入り、売り上げ等落ちてはいるとは言ふものの、他の観光地に比べれば毎日の観光バスの乗り入れ状況等悪くはないのではなからうかと想像する。
今年の町観光協会の総会でも協会長統投の柳下浩三氏の挨拶で、危機感を持って当らねばならない状況ではあるが、むしろこのような状況の中にあればこそ智慧を出し合い協力し合つて他に先んずるチャンスの時でもあると。
夏へ向つて今年のお開き来る二十七日を目前に地元紙新潟日報にも全面広告が掲載され、当日は朝から全町一掃掃除ボラン

この地域へはシーズン中最高二百張り以上のキャンピングテントが立ち並び、それに伴うトラブルも新たな問題として生じているのだが、これも流行のネットワーク、ニューライフ産業として生かしている。

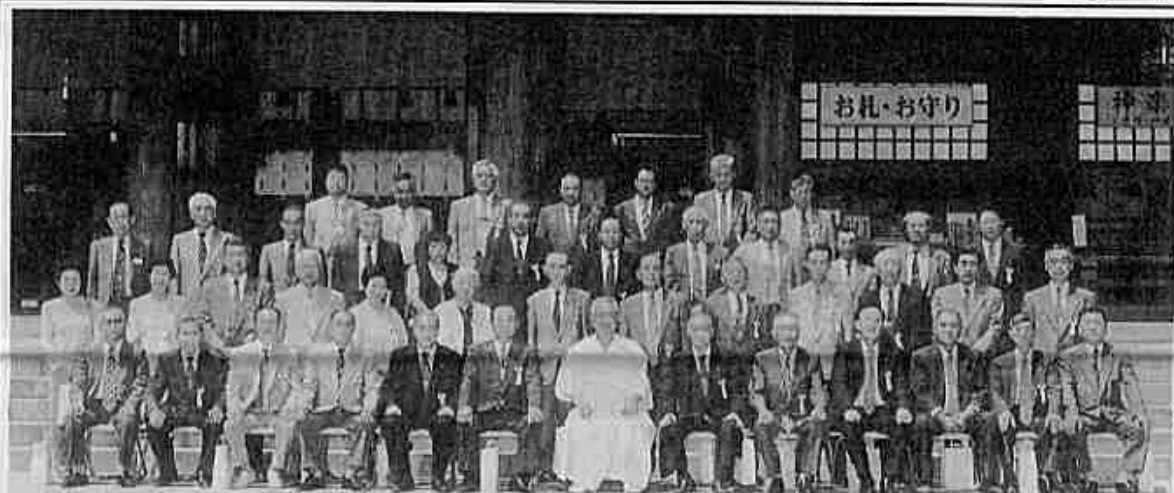
ティアアを呼びかけての海岸清掃が早朝から展開され、海難供養海開き神事、砂像コンテストを始め浜茶屋前特設会場で大観り市が催される。
釣待ち(釣り人)の意勢の良い掛け声で本格的な釣り場さながらの釣り市では「日本海まるごとセリ市」「主役はあなたです」と獲れたての魚が破格の安値で売られる。
実は私も一度参加して大鯛二匹とキス二十四匹の一箱を釣り落とした経験があり、当日はタイの焼き物、タイとキスの刺身キスの天ぷら、タイのアラの吸物と海の幸満喫の夕食を頂戴したことがあるのです。
さてその浜茶屋の前の年々延びる砂浜が今年も更に延びて、浜茶屋から波打際までは三百メートル以上、色々と工夫はするものの有名なし、砂防やゴミ処理、その上国有地を借りている浜茶屋の移転、又浜茶屋の後継問題等々頭痛の種は山積みで、唯一花火の打上げと見物席には事欠かないと言ふのが利点で、隨道川(初君橋)から浜茶屋北側の荒磯川までの砂地へは土を入れて植栽する計画が試行されている。

己に隣村の和島村では山田海岸に隣接する丘陵をオートキャンプ場として整備、シーズン前に夏休み中は予約満杯の盛況と聞いている。
採算面はともかくとして誘客の資源としては最有力なものの一つであり、特に自然に親しむ指向が関心を集めている中で、複合的な観光実績は相当に期待できるのではなからうか。
その植栽のバイロットゾーンにはナツシログミ、アキグミ、ハマゴウ、ハマナス、ハマヒルガオ、ハマカンゾウ、ハマニンニク、ハマエンドウ、ハマナデ



郷本海岸でのエゴ拾い風景。乾燥保存すれば10年位は大丈夫と言う便利な食品。しかも天然の健康食品。
それぞれの家庭で、練り方にも流儀があるようで、話しがはじまればみんな手前味噌。

シユ、ハマギク、クコ、トベラマルバシヤリンバイ、フイリヤブラン、マンネングサ、テイカカズラ、ハイビヤクシン、マサキ、ヤマハギ、クマザサ、レンギョウ、ジャーマンアイリス、ヘメロカリス、アペリア等々砂地、潮風、乾燥などに耐えられそうな草木が試験的に植えられているのだが中々思うに任せないように見える。
それでもカンゾウの花が咲きグミ類、ハマヒルガオ、ハマエンドウなどが「頑張っているねえ」と声をかけたくなるほどに吹きつける砂や潮風に耐えてけなげに生きづいてる。
ただ廻りを見廻すと一寸皮肉



当町出身の外山勝志氏が明治神宮々々の要職に就かれ、ふるさとだより、東京寺泊会とも縁があり、町では明治神宮崇敬会寺泊支部が結成され当社への参拝が毎年催される。今年には44名が参加。神社参拝のあと記念会館で昼食、富士を目の前に見る宿鐘山苑で一泊。翌日は富士五合目を目指す予定だったが雨の為コース変更。一泊二日の楽しく有意義な旅だったようだ。

にも見えるのだが搬入の土に混じって運びこまれたヨモギ、ツメクサ、ススキ、ダイロツバなどいわずの雑草類がいきいきと生え繁り、クローバーなどは広々とした草むらとなりその一角を占拠しており、可憐なコスモスが1輪美しい花をつけている姿には見惚れる程の存在感があった。

その道の専門家の話をラジオで聞いたことがあるのだが、砂地での植栽は大変難しく、特に細かい砂が葉に付着する為に枯れると言う特殊な状況への対応が一層困難を引き起こすと言ふことで、気象状況の似ている先進地に学ぶことが肝心と思われた。やがて美しい草原の誕生を期待しながら広大なこの砂地を歩いてみた。

公園内に入ると平和の礎の像の周囲にはハマナスが花をつけている。風よけの内側だけに潮風の影響もあまり受けずまあまあ花をつけている。

一寸シモ手へ戻って昨年秋季に緑の応援隊の植樹したシャリンバイとニシアカシアの苗木はやはり潮風にやられて元気がなく中には枯れたものも何本かで見られる。海岸での植樹の難しさが如実に現れている。

苗木の選択が上手かったのか？ それにしても枯れて哀れな姿にはなってしまうものの海岸沿いに見事に年を経た老松たちの逞ましさにあらためてね

ざらいの拍手をおくりたい気持ちになった。一気に車を走らせ、金山を過ぎると海岸に人が集まっている。

昨日の急な西風に寄ったエゴ拾いの人達だ。潮の流れや波よけのテトラポットの関係で海藻や流木の寄る場所は限定される。

大和田の手前、七ツ石、郷本川のカミ手辺が特に沢山漂着するよう、盆過ぎの土用波の寄せる頃から台風シーズンにかけては波の出た翌日には何事かと思う程に暗いうちから海岸通りには車が並び砂浜は押すな押すな人の群で県外から駆けつける人もいる程。

自然食品特に海藻は大人気のようで春先のアオサ、一本モゾク、ワカメ、モゾク、テングサ、エゴ、冬場にはギバサなどシーズン通じて海藻の恵みを楽しめる。

山田海岸に昨年完成した観水ゾーンは休日になれば子供達が魚釣りなど楽しんでいるが、梅雨の曇り空の下では遠く弥彦山がけぶるように静かなたたずまいである。

道路山手側には本道の落着いた建物山田海岸駅が雨やどりにも又炎暑の避難にも調法している。周辺の花壇にはこれから真紅のカンナが美しく咲く。



山田海岸の観水ゾーン。どんよりした曇り空の下、遠く弥彦山がかすみ、ゆったりとした海岸風景。日曜日には子供達で賑わう場所である。



文化センターはまなすの北側に、日本海夕日の森がある。かくの如き風除けフェンスの中に松の苗木が植えられている。散歩道があり、遊園地があり、夕日を眺める展望台がある。

小波会六月句会詠草

(兼題 清水・余花 他当季)

笹舟に 能登 頑牛
来し方じのぶ草清水
庵校の 水沢 蕉子
裏は清水と不動尊
ひそやかに 大越碧水子
清水流れて村塵る
一杓を 小形 美代
釜に差し水余花の雨
奥深き 石川 致女
古都の山間余花白し

野も山も 外山きよし
青染み互る余花の村

はらはらと 中村 流瀧
余花散る谷の深さかな
人気なき 江原 汀子
闘牛場に余花ゆれる
ゆくりなく 小島 温石
余花に会ひけり男坂
早苗巽は 竹内 霍山
新笹餅と鯛の菓子
卒寿なる 矢尻ゆきを
母の求めし日日常

地に浸みる 小島 冬扇
夜の雨音花胡瓜

灯台に 加瀬 白汀
夏めく波のしらべかな
夏旅や 外山 海子
茜の富士に真向えり

誌代御後援 (順不同敬称略)

金沢市 佐野 文治 金五千元
東京都 渡辺 賢一 金壹万円
〃 青柳 南 金五千元
〃 渡辺 正明 金五千元
静岡市 坂本 忠世 金五千元
返子市 武沢富士太郎 金五千元
赤井町 刈部 一司 金三千元
〃 増井 勲 金三千元
〃 上野 後藤 ハツ 金三千元
〃 上野 金切 好作 金三千元
〃 坂井町 納谷 一徳 金三千元
〃 松沢町 早川 タツ 金三千元
〃 上野町 石原 勝子 金三千元
〃 西山 静一 金三千元
〃 能登喜代二 金三千元
東京都 北村 良子 金壹万円
〃 宮前 里子 金壹万円

あとがき

待望の海開き二十七日は最悪の天気となって夜明けと共に大雨。諸行事も一部中止となったが海岸清掃の呼び掛けに応じて町内外から八百人以上が参加、雨の中野積、中央、金山と各海水浴場の清掃に共に汗を流した。

思えば三国海岸での重油流出事故がきっかけとなって海を美しくの思いが根づいたよう、まさに災い転じて福となった。浜茶屋の中で海難供養、海開きの神事が勤修され、雨の中とは言え青年達は博御輿を担いで海に飛び込み心意気を見せてくれた。

人気の魚の競り市は急拠会場を漁業組合の競り場に変更。むしろ臨場感溢れる中での競りとなり盛り上りの中次々と破格の買得値で売買成立。それぞれ夕食の膳は寺泊ならではの魚料理で賑わったことであろう。故郷への思いは若い一時期むしろ傾わしくさえ感ずることもある。しかし年を重ねる中でそ



砂浜の緑地化のための植栽実験品。色々な植物が試験植栽されているが、潮風と砂嵐で仲々思うようには育たない。ここに広々とした緑地が誕生する日もそう遠くはあるまい。

毎月二十日発行
寺泊ふるさとだより

誌代共(百円)
編集人 中村 興樹
発行人 新沢 泰忍
発行所 新潟県寺泊町
ふるさとだより
郵便番号 九四〇-二五〇二
ダイヤル局番 〇二五八七五
電話 二〇二一九番
印刷所 吉野印刷株式会社

れは自然と止み難いにつかしい思いに変わってゆく。一寸早いが来年は東京寺泊会発足四十五周年の記念の年である。ふるさと便り五百号突破の思いも合わせて盛り上げたいものである。同級会等通じて是非参加をすすめて頂きたい。